

平成29年度 社会福祉法人えどがわ評議員会・理事会

実施日	議案	場所	出席人数
平成29年 5月24日(水) 第81回理事会	①平成28年度事業報告について ②平成28年度決算報告について ③平成30年度民営化予定園の園名について ④評議員会へ議案提出(理事並びに監事の推薦)について ⑤評議員会への議案提出(会計監査人の推薦)について	グリーンパレス 高砂・羽衣	11名
平成29年 6月9日(金) 第70回評議員会	①平成28年度事業報告について ②平成28年度決算報告について ③平成30年度民営化予定園の園名について ④理事並びに監事の選任について ⑤社会福祉充実残高の算定について ⑥会計監査人の選任について	社会福祉法人 えどがわ 事務局会議室	14名
平成29年 6月9日(金) 第82回理事会	①理事長、副理事長、常務理事の互選について ②会計監査人の報酬について	社会福祉法人 えどがわ 事務局会議室	10名
平成29年 9月29日(金) 第71回評議員会	①平成29年度事業報告(中間報告)について ②平成29年度補正予算(案)について ③規程等の改正(案)について ④平成31年度民営化予定園について	グリーンパレス 孔雀2	9名
平成29年 9月29日(金) 第83回理事会	①平成29年度事業報告(中間報告)について ②平成29年度補正予算(案)について ③規程等の改正(案)について ④平成31年度民営化予定園について	グリーンパレス 孔雀2	10名
平成29年 12月15日(金) 第72回評議員会	①平成30年度事業計画(案)について	グリーンパレス 高砂・羽衣	12名
平成29年 12月15日(金) 第84回理事会	①平成30年度事業計画(案)について	グリーンパレス 高砂・羽衣	8名
平成30年 3月14日(水) 第73回評議員会	①平成29年度補正予算(案)について ②平成30年度当初予算(案)について ③園長級異動及び昇任(案)について ④規程の改正(案)について	グリーンパレス 高砂・羽衣	12名
平成30年 3月14日(水) 第85回理事会	①平成29年度補正予算(案)について ②平成30年度当初予算(案)について ③園長級異動及び昇任(案)について ④規程の改正(案)について	グリーンパレス 高砂・羽衣	9名

平成29年度「社会福祉法人えどがわ」事業実施状況一覧

区分	実 施 内 容
法 人	社会福祉法改正への対応(定款変更等の規程整備)
	理事・評議員の改選
	会計監査人の導入(予備調査、園巡回監査 各園2回)
	各種規程改正(組織・職務権限・経理・給与・育児休業・非常勤賃金)
組 織 ・ 服 務	基本理念の記載見直し
	昇任選考の実施(上級職員及び副主任 長期・短期)
	完全週休二日制の導入、休憩時間確保への工夫、働き方改革
	キャリアパスにつながる研修計画の策定と研修の実施
人 事 ・ 給 与	職場環境向上委員会の継続開催
	給与規程の改正(ベア実施・新処遇改善手当・役職手当の新設及び増額)
	就業規則の改正(完全週休二日制、ハラスメント規程等)
	人事考課制度の実施及び給与反映
事 業	非常勤職員の処遇見直し(月給制導入及び処遇改善の実施)
	事務事業の改善改革(みずほ総研 ※コンサル活用)
	給食業務委託の評価(保護者アンケート・食材コスト等)※委託費・職員配置基準の統一
福 利 厚 生	調理従事者への精励記念品
	職員健康管理の充実(健診データの有効活用)
	園内衛生管理の向上
求 人	職員報の発刊、内容充実
	求人票送付 160校 学校訪問 21校 説明会参加 4校
	就職フェアへの参加
財 務 管 理	就職説明会用ボード・パンフレット作成等
	予算及び執行状況の見える化(クラウド対応)
	会計処理の入力代行及びF T化
I C T	財務分析と収支差額の計画的積立及び本部拠点への資金移転
	人事・給与システムの導入及び活用
	職員勤怠システムの導入(シフト作成の自動化)
	グループウェア(社内メール・スケジュール・掲示板等)・ワークフローの導入
T	園児管理システムの導入(入退室・各記録作成) タブレットの設置
	テレビ会議システム及び動画システムの導入

1. 利用定員

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	20 人	24 人	35 人	35 人	35 人	149 人
運用定員	20 人	24 人	35 人	35 人	35 人	149 人

2. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> ・保育士の資質向上 ・組織力の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性向上の為、経験年数に合わせた法人研修、外部研修の内容を精査し、参加した。職員が共有できるよう、研修報告を行った。 ・毎月リーダー会議を実施、保育の変更内容や行事の見直しを行い、会議を通して、全職員で共通理解を行い、チーム力強化、職員の意識を高めた。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域子育て支援の充実 ・近隣地域の交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てひろばは、リピーターや口コミで利用者も多く好評で、園児と一緒に体験できるプログラムを行い、保育園というものを知って頂く機会を設けた。問い合わせも多い為、ホームページや掲示板で詳しい情報を提供した。 ・近隣の公園の花植えボランティアや、老人ホームへの訪問を通し、人との触れ合いの大切さを経験した。
<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理意識を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人合同避難訓練で、負傷者の搬送や本部との報告等の経験を通し、職員の役割や、自ら意識して行動できる事を再確認。避難訓練に対する意識が向上した。 ・防犯の為、正門オートロックの暗証番号を年2回変更。危機管理について、あらゆる状況を把握出来るよう意識を高めた。

3. 養護

健康・病気

感染症	溶連菌	35 名	水痘症	31 名	手足口病	26 名	他	61 名
<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初は、溶連菌、夏に手足口病、秋に水痘症、冬期にインフルエンザが流行。手足口病は乳児、水痘症は幼児の感染が主であった。早朝保育等、異年齢合同保育が感染の原因と疑われる。感染症については、園内で掲示し、注意を促すと共に、衛生管理に努めた。 								

給食・アレルギー

アレルギー児	14 人	単品	9 名	複合	5 名	エピペン対応	1 名	エピペン使用回数	0 回
<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー児の人数が多く、保護者、給食、保育園が連携し、毎月献立を確認。給食の提供の際には、給食、園長、担任がチェックを行い、誤食等の事故は無かった。 									

危機管理

<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の避難訓練では様々な災害を想定し実施。第2避難場所（公共施設、津波想定の際に避難する小学校）と連携を図り計画を立て、職員で確認し避難訓練を行った。 ・警察署指導の下、交通安全教室、防犯訓練を行い、子どもの安全について学んだ。
--

4. 教育

<ul style="list-style-type: none"> ・和太鼓、英語、リトミック活動を、保育に取り入れ、年間を通じて取り組んだ。和太鼓は、発表する機会を設け、夕涼み会やおさらい会で発表。子どもたちの自信に繋がった。 ・食育として、夏野菜を栽培し、食への興味関心を高め、食べる事の楽しさを味わえるよう活動した。（大豆を栽培、枝豆を食し、秋にきな粉作り、冬に味噌作りを行い次年度味噌汁作り）

5. 家庭支援

<ul style="list-style-type: none"> ・一時保育はリピーターも多く、新規登録者が増え、予約日には予約が取れない状況であった。 ・入園を希望する見学は、年間246世帯。特に入園申込み前の希望者が多く、回数を増やし対応した。保育園入園にあたり不安な事、園への質問等各家庭ごと丁寧に説明する事を心掛けた。

6. 第三者評価、利用者アンケート

<ul style="list-style-type: none"> ・8月に第三者評価を受審。回収率が低かったが、94.7%の満足度を得られる事が出来た。 ・保育園運営の基本的な考え方（理念方針）、安全対策、子どもと保護者のプライバシーが守られている、第三者委員の周知、子どもの状況に配慮されているという内容に高い評価を頂く。 ・行事が多く大変、職員の登降園時の伝達が職員により違っていると指摘受ける。

1. 利用定員

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	20 人	23 人	23 人	23 人	23 人	112 人
運用定員	20 人	23 人	23 人	22 人	22 人	110 人

2. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> ・保育目標の実現と保育士の資質の向上を図る。 ・職員間の連携と個々のコミュニケーションスキルを高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の基本的習慣の基礎を育む事や生活を送る中で話す、聞く、理解しようとする心を育てることを目標にした。年齢によつての発達段階を理解し実践するための学びが必要と感じたことで、園内研修を行い、連携の大切さを学び合い、職員同士がより良い関係になるよう努めた。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域、子育て支援の輪を広げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の施設に、子育てひろば開催のポスターを掲示、ホームページ等でもお知らせした。親同士が子育てについての情報交換をする場となるよう、プログラムを策定、実施した。
<ul style="list-style-type: none"> ・安全対策・危機管理に対する意識の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練、子どものアクシデント、ヒヤリハット等の振り返りを行い、危険個所や危険が予測されることを全職員で周知、検証を行い、保育園全体で更なる意識を高められるよう心掛けた。

3. 養護

健康・病気

感染症	溶連菌	22 名	インフルエンザ	21 名	手足口病	16 名	他	23 名
<ul style="list-style-type: none"> ・感染症発生時は、保護者に掲示、情報の提供を行い、欠席の電話連絡の際、症状を聞き保育園で流行っている病気を伝え知らせるようにした。家族が感染性の場合は門対応を行う。また嘔吐物処理など園内研修を行い感染を防ぐよう心掛けた。 								

給食・アレルギー

アレルギー児	3 人	単品	1 名	複合	2 名	エピペン対応	0 名	エピペン使用回数	0 回
<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー食品は卵、乳、大豆、バナナ、糖等様々であるが、給食、事務所、職員で確認を行い誤食は無かった。 									

危機管理

<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練は、色々な状況や時間を知らせない訓練を設定、職員が一人ひとりが自ら対応できるよう、出来なかったことを振り返り、次回に活かすよう実施した。

4. 教育

<ul style="list-style-type: none"> ・講師による音楽、体育、英語活動を取り入れ、子どもたちが楽しんで参加し、様々な体験を通して、出来た事の喜びや自信につながるよう心掛けた。子ども一人ひとりの成長を見ながら各講師と話し合い、日々の保育に取り組めるよう計画、実施した。
--

5. 家庭支援

<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの事を一番に考え保育や行事について職員で話し合い、保護者に保育園の考えを伝えながら寄り添うようにし、保育園での様子を伝えながら保護者の方と一緒に子育てを楽しむよう心掛けた。都度、話し合う機会を設け、早急に対応した。

6. 第三者評価、利用者アンケート

<ul style="list-style-type: none"> ・登降園時の保護者とのコミュニケーションの取り方や伝達方法で課題があり、子どもの様子が一番聞きたいという保護者の気持ちを考えて伝達することを心掛けた。 ・友だちとのトラブルについての報告の仕方を見直し、保護者会でも保育園の方針を伝え、報告の仕方を周知する。

1. 利用定員

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	12 人	18 人	22 人	24 人	24 人	100 人
運用定員	17 人	22 人	24 人	24 人	24 人	111 人

2. 重点目標

重点目標	評価・反省
・ 職員の資質向上と連携強化	・ 法人主催研修をはじめ、各種研修に出席することにより資質向上を図る。 ・ 各クラスの週日案を事務所内に掲示する事により、他クラスの保育が見える化し、よりクラス間の連携を深める事が出来た。
・ 危機管理の強化を行い、安全な保育園を目指す	・ 食物アレルギー対策として、提供毎の確認や園内研修等を行い、誤食はなかった。 ・ 毎月実施している避難訓練のほか、不審者訓練や交通安全教室、津波訓練など、様々な想定 of 訓練を通して安全対策に努めた。また、園庭側の柵の修繕を実施、安全対策を強化した。
・ 地域子育て支援と保育士の人材育成 ・ 保育園の取り組みの周知	・ 次世代の保育者の育成のため、積極的に実習や保育体験を受け入れた。今後も継続して実施する。 ・ 保護者の方に保育園の取り組みをブログや掲示などを通して周知した。また、1日保育士体験を継続実施し、保育園に対する理解をより深めた。

3. 養護

健康・病気

感染症	溶連菌	29 名	インフルエンザ B	24 名	手足口病	21 名	他	24 名
・ 感染症が流行する度に玄関先にあるボードに掲示をし、注意喚起を行い拡大防止に努めた。								

給食・アレルギー

アレルギー児	6 人	単品	4 名	複合	2 名	エピペン対応	2 名	エピペン使用回数	0 回
・ 家庭と給食業者と保育園の連携を行い、給食の提供を行った。又、年度終わりにエピペンを持参する園児が1名増えたので、職員にも周知した。									

危機管理

・ 様々な想定のもと避難訓練を実施した。その中で年2回は指定の園外へ避難する訓練を行った。又、防災用品の確認や簡易トイレ等の使用方法等も含め、園内研修も実施。年1回の警察署指導の不審者対応訓練を実施。
--

4. 教育

・ リトミック、和太鼓の指導のもと、礼儀や集中する等の指導を行った。英語では、異文化を感じ指導。日々の保育の大切さ、講師による活動と子ども達に様々な経験を通し、年齢にあった保育活動の充実に力を入れた。
--

5. 家庭支援

・ 一時保育の利用は日々定員一杯の状況であった。 ・ 子育てひろばと共に保育所体験を実施、保育所をもっと身近に感じてもらい、親子にとって落ち着ける場所、また情報交換の場となるよう努めた。
--

6. 第三者評価、利用者アンケート

・ 利用者アンケートでは、大変満足が77.4%・満足が22.6%と高い評価を受けた。日々の子どもの様子や行事について等を保護者にわかりやすく丁寧に心を掛けて説明してきた結果だと思われる。

1. 利用定員

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	26 人	28 人	31 人	32 人	33 人	150 人
運用定員	28 人	30 人	31 人	31 人	31 人	151 人

2. 重点目標

重点目標	評価・反省
・子どもの生活環境の改善	・フリースペースを上手く使い、子どもが落ち着いて活動する場所、異年齢児交流が出来る場所など多岐にわたりより安全に過ごせ、快適に生活できるよう、環境整備に努めた。（保育室の窓には目隠しシートを貼など）
・感染症対策及び対応について	・手足口病、りんご病が例年より多かった。同感染症が2名発症した場合、園内掲示を行い、注意喚起した。 ・手洗いうがいを子どもには丁寧に指導し、嘔吐物等の処理方法については、職員間で共通理解をするため、動画による研修を行った。
・施設状況を踏まえ、設備及び器具点検を行い安全管理に努めていく	・園舎、設備については、定期的にメンテナンスを行い、特にエアコン、扇風機については更新した。 ・園内の蛍光灯をLEDに変えたことは保護者に喜ばれた。電気の定期点検で不具合もみつきり、法人と相談しながら改善した。

3. 養護

健康・病気

感染症	インフルエンザ	47 名	手足口病	45 名	りんご病	23 名	他	36 名
・感染性胃腸炎は例年より少なかったが、手足口病とりんご病が多かった。手足口病、りんご病に関しては保護者の認知度が低く、症状など掲示し、注意喚起した。								

給食・アレルギー

アレルギー児	4 人	単品	2 名	複合	2 名	エピペン対応	0 名	エピペン使用回数	0 回
・保護者には保育参観時に試食をしていただき、提供している給食を理解していただく機会を作った。誤食を防ぐために給食、担任、事務所でチェックを行い、間違えないよう提供した。									

危機管理

・様々な想定の下、避難訓練を行った。プール遊びの前にプール遊びの留意点と監視について園内研修を行った。

4. 教育

・幼児クラスは体育、リズム、英語あそびを行った。英語あそびは講師にお願いしたが、体育、リズムは職員が専門講師の助言を受けながら、日々の保育に取り入れ、子ども達が楽しく実施できるよう工夫した。また、遊びながら自然の事象に関心を持ったり、廃材制作、ごっこあそびなど多様な経験を通して子どもの創造力、言語力、表現力を豊かするよう努めた。

5. 家庭支援

・子育てひろばでは在園児と交流し、制作や手あそびなどを親子で楽しむ活動、保育所体験は行事に参加していただき、在園児と保育園生活を理解できるよう、プレママ支援はベビーマッサージを通して子どもとの愛着関係の大切さを知っていただくことで子育ての基礎を伝える活動を行った。
--

6. 第三者評価、利用者アンケート

・利用者の満足度は98.3%であった。保育園運営に対しても概ね理解をいただいている。しかし、園舎、保育室の家具の老朽、園庭の水はけの悪さ、テラスの使い勝手が悪いことに対して意見があり、対応の必要を感じた。
--

1. 利用定員

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	24 人	27 人	31 人	31 人	31 人	144 人
運用定員	24 人	27 人	31 人	31 人	31 人	144 人

2. 重点目標

重点目標	評価・反省
・保育の見直しと質の向上	・毎月のリーダー会議や状況報告会議の実施、日々の昼礼を通して、クラス、全体の様子を把握、環境設定や指針の改定に伴う学び等、活発な意見交換を行い、保育の見直しをした。 ・リーダー職員を中心に職員育成に力を入れた。書類作成や保護者対応等、丁寧な指導に心掛けた。
・職員のチーム力を高める	・育休取得職員も多く、担任を越えて全職員で協力、助け合い等で保育を行う場面が多々あった結果、園全体のチーム力が高まった。又、他クラスの子ども達と関わることで、全職員で細かな情報まで共通理解することが出来た。
・危機管理、安全対策の強化	・土曜、合同保育時の災害マニュアルの見直しを行ったリーダー層が不在の状況でも判断、伝達対応出来るよう全職員で把握をした。 ・自転車置き場の出入り口の門を、登降園の時間帯以外は閉め、外部からの侵入が無い様、又、1階保育室の安全がより高められるように改善した。

3. 養護

健康・病気

感染症	手足口病	60 名	インフルエンザ	29 名	溶連菌	22 名	他	49 名
・7～10月にかけて、手足口病が全学年で流行。インフルエンザはA・B共に発症。感染拡大を防止するため、掲示板にて保護者に周知、各家庭でも子ども達の体調の変化に気を付ける様、注意喚起を行った。								

給食・アレルギー

アレルギー児	9 人	単品	4 名	複合	5 名	エピペン対応	2 名	エピペン使用回数	0 回
・4月のみ弁当対応が1名、その後給食利用になったが細心の注意を払い対応した。アナフラキシー緊急薬を6名預かっていたが、1名発疹等の症状が出る事が多く、保護者と連絡を取りながら必要時に服用をした。給食と園で複数確認を行い、誤飲等の事故はなかった。									

危機管理

・嘔吐（衛生）処理の対応方法を再度園内研修にて全職員で把握し、感染拡大防止を行った。警察の指導のもと防犯訓練を実施し、さすまた3本を使用しての対応等具体的な指導を受け、全職員で把握、防犯意識を高めた。
--

4. 教育

・幼児クラスを対象とした体育教室を週に1回実施。年長児は運動会発表に向けて計画的に前年度より行うことで、一人一人が達成感を味わい、自信を持つことで小学校に向けてのスムーズな移行に繋がった。英語あそびでは外国人講師と触れ合うことで、自然に英語で挨拶をしたり、ハロウィン等の行事を体験し、子ども達の興味、関心が高まっている姿が見られた。
--

5. 家庭支援

・5歳児女兒1名が、家庭支援センターと繋がっていた。昨年度は母親の体調が優れない理由から欠席がちであったが、年長クラスになったことで、小学校に向けて母親の気持ちも前向きになり、様々な援助を利用しながら通園するようになった。園児も様々な行事に熱心に取り組み、友だちとの関わりも楽しみ、問題なく園生活を送ることが出来た。
--

6. 第三者評価、利用者アンケート

・利用者アンケートを実施。子ども達が戸外あそびや行事等で自然や社会と関わる機会が多い事、保育中の体調変化への対応、園内の清潔な環境等への評価が高かった。改善すべき点としては、安全対策や子ども同士のトラブルの際の職員対応があげられ、すぐに職員間で話し合い対応していった。行事の日程に配慮をという意見有。
--

1. 利用定員

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	21 人	24 人	26 人	28 人	25 人	124 人
運用定員	21 人	24 人	26 人	28 人	25 人	124 人

2. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> 子どもが主体となる生活環境づくり 気持ちよく過ごせる環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 乳児は生活を軸に遊び、食事、着脱に対する意欲、幼児は遊びを通して考え、工夫する楽しさを意識した、子どもの主体性をテーマに保育を展開した。 子ども、保護者にとって安心できる保育園、職員にとっても働きやすい環境となるように努めていった。
<ul style="list-style-type: none"> チームを意識で出来る職場づくり 報告、連絡、相談の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 法人研修を通し、各自の立場役割を自覚できるよう、職員も主体性を持ち積極的に行動する事で円滑な保育園運営を行っていった。 保育園で起きている出来事を朝昼礼や会議で共有した。報連相を迅速に行う事でトラブルを最小限にできた事も多かった。
<ul style="list-style-type: none"> 危機管理の強化 (災害・防犯・安全対策) 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練を様々な想定で行い、職員が状況に応じた対応ができるよう実施した。保護者に協力を仰ぎ園庭門の施錠、降園時の速やかな降園を徹底した。 感染症について職員が共通の方法で衛生対応が出来るよう園内研修を複数回実施し感染予防に努めた。

3. 養護

健康・病気

感染症	インフルエンザ	32 名	手足口病	37 名	溶連菌感染症	15 名	他	35 名
<ul style="list-style-type: none"> インフルエンザが年度当初幼児クラスから流行した。6～7月には手足口病が1～3歳児を中心に蔓延した。溶連菌感染症は年間通して発症。感染線胃腸炎の流行はなく、嘔吐や下痢の処理、消毒を徹底した成果の現れかとも感じる。 								

アレルギー児	3 人	単品	2 名	複合	1 名	エピペン対応	0 名	エピペン使用回数	0 回
<ul style="list-style-type: none"> 誤食がないように提供前に園長、給食、担任の3者での確認を欠かさず行った。その際アレルギー献立を基に確認、クラスにおいてもアレルギー児の座る位置、配膳の順番等も徹底した。誤食等の事故はなかった。 									

危機管理

<ul style="list-style-type: none"> 法人総合避難訓練を行い、法人本部との連絡連携の確認をした。ヒヤリハットの記入形式を変更。ヒヤリハットを共有し、振り返る事で事故を未然に防げるようにした。避難訓練では訓練後の反省を大事に、様々な想定を考え、対応できるようにした。

4. 教育

<ul style="list-style-type: none"> 英語、体育、リズムあそびは、保育園としての方向性を持ち、講師と話し合いを重ねながら指導計画を立案。特にリズムあそびは異年齢の交流の場として1年間取り組んだことにより、年長児の成長を感じた。 主体的にあそびをテーマにおみせやさんごっこを行った。子どもと共に職員の学びとなった。
--

5. 家庭支援

<ul style="list-style-type: none"> 地域に向けた子育てひろばでは1歳前後の親子の参加が多く定期的に利用する家庭が増えている。毎月発行しているおたよりも、子育てのヒントとなる内容を掲載した。 一時保育は、専任の保育士を配置する事で子どもも保護者も安心感を得られるようにした。子育ての相談を受ける等、信頼も深まる一方、新規の予約が取りにくい状況になっている。
--

6. 第三者評価、利用者アンケート

<ul style="list-style-type: none"> 利用者アンケート実施。概ね満足という評価を得る事が出来た。「登降園時の伝達が少なく、園の様子がわかりにくい」という声が複数上がった。伝達漏れのないように職員間の連携を深めると共に、職員のコミュニケーション力を高め日常の笑顔と会話を大切にする意識を高めていきたい。

1. 利用定員

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	24 人	27 人	34 人	36 人	36 人	157 人
運用定員	24 人	27 人	34 人	36 人	36 人	157 人

2. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> 運動あそびと戸外活動を通して体づくりに繋げていく。 交友関係を広げ、他者を認める心を育てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣公園までの経路確認、地図の作成はできずに終わってしまった。実施時期を決めておきたい。 体操については、講師主導になってしまったが、随時担任の意向を確認してもらいながら進めていった。リズムや体操、散歩等異年齢と声を掛け合い一緒に楽しむ機会が増えている。
<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長に合わせた関わりのできる、環境構成の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 担任の意識差がでた。常に同じ環境設定だったり、玩具の備えや遊び方等の工夫の意識が薄いクラスもあったが、ロッカーや棚の配置を見直したり、テラスを活用するなど、保育士の柔軟さも出てきた。
<ul style="list-style-type: none"> 保護者と連携した子どもの育ちの支援 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の何気ない会話は、まだ難しいと感じるが、保育士個々では意識が高まり、自分の見た子どもの姿を添え伝えるよう努めていた。発達を捉えた姿をより丁寧に伝えられるよう、園内研修を今後も考えていきたい。

3. 養護

健康・病気

感染症	インフルエンザ	74 名	手足口病	61 名	溶連菌	29 名	他	15 名
-----	---------	------	------	------	-----	------	---	------

・インフルエンザは1月、2月に流行し、手足口病については、7月に40名を上回った。溶連菌は、1年を通し発症していた。昨年度園内で流行してしまった胃腸炎に関しては、処置の仕方を徹底したこともあり、流行することはなかった。

給食・アレルギー

アレルギー児	7 人	単品	4 名	複合	3 名	エピペン対応	1 名	エピペン使用回数	0 回
--------	-----	----	-----	----	-----	--------	-----	----------	-----

・対象児全員が鶏卵をアレルゲンとしており、エピペンを預かっている1名も魚卵は解除になった。食事の事故もなく、一年間過ごす事ができた。

危機管理

・登降園時に使用する園庭を開けたままにする保護者が多く、声掛けやお手紙等で周知をしていったが、保護者の意識はなかなか変わらないでいる。園庭あそびも多く、登降園時には十分気を付けていきたい。

4. 教育

・自ら遊びを展開していく中で、考え、言葉による伝えあいや協同性を学び、身に付けていけるよう援助していった。異年齢との関りも増え、その中でそれぞれの年齢にあった規範意識や道徳性を育み、相手を認め、また認められる信頼関係を育てることができるようにした。

5. 家庭支援

・支援センターに関わっている家庭の子ども達の視診を丁寧に行い、変化のあった際は確認をしていった。2名シェルターに入所した。保護者全体については、日常の姿を保育士自身の言葉で伝えていく事を目標にしていった。また、園だより、クラスだより、ブログに加え、園長発行の手紙で日常や子どもの様子を伝えていった。今後も保育の情報を発信していきたい。

6. 第三者評価、利用者アンケート

・評価機関からは、保育に関する活動が子どもの発達や興味に即しているか、また、身近な自然や社会との関りの項目で、90%前後の良い回答が出ている事、保育園で大切にされているかの設問について良い回答が増えた事を高く評価してもらえた。自由意見では、連絡の遅さがしてきされていたので、職員間の周知や情報共有を密にしていく事を徹底していく。

1. 利用定員

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	17 人	20 人	24 人	26 人	26 人	113 人
運用定員	21 人	22 人	23 人	22 人	24 人	112 人

2. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> 子ども達の最善の利益を守り、心身の発達を促す 	<ul style="list-style-type: none"> 月反省を乳児、幼児に分けた事で、子ども達の状況が把握しやすくなった。また課題のある児の対応もクラスだけでなく全職員が同じ見方で対応する事で子どもにも変化が見られ、チームとして受容的、応答的保育を全職員で話し合い実施した。
<ul style="list-style-type: none"> チームワーク作り 	<ul style="list-style-type: none"> 職員同士が、相手の目線に立つ事で様々な角度から相手の気持ちを感じ取る事が出来るよう話し合いを行い。どのようなチームとして認識してもらいたいかな等、話し合い共有出来た。 幹部会議、リーダー会議、職員会議を円滑に進め、チームとして働く事で働き方改革に努めた。
<ul style="list-style-type: none"> 安全管理 	<ul style="list-style-type: none"> 法人感染症マニュアルを全職員で共有し、発症の際は迅速に保護者に掲示する等拡大予防に努めた。 防犯訓練を行い、不審者発見時の対応について更に内容を深め、職員の意識が高まった。 園内、外の日常点検を強化し、事故予防に努めた。今後も遊具・玩具の点検も含め安全管理に努める。

3. 養護

健康・病気

感染症	手足口病	46 名	インフルエンザ	31 名	ウイルス性胃腸炎	19 名	他	16 名
<ul style="list-style-type: none"> 今年度は手足口病が流行した。感染症発生時、手洗い強化に努め、保護者には掲示等で迅速に伝えた。今後も感染症対策に努めていきたい。 								

給食・アレルギー

アレルギー児	6 人	単品	4 名	複合	2 名	エピペン対応	0 名	エピペン使用回数	0 回
<ul style="list-style-type: none"> 給食室との連携を図れるよう、全職員でアレルギー児の情報を共有。食器、トレイ、テーブルの配置、提供前の書面、口頭での確認に努めた。 									

危機管理

<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練の時間帯を職員には伝えず実地で行った為、指示を聞いて瞬時に行動出来るよう危機管理意識が高められるようにした。
--

4. 教育

<ul style="list-style-type: none"> 保育所保育指針の改定に向けて読み合わせを行い「子どもの主体性」について考えた。 運動あそびを通して健康を育み、集団活動や異年齢児交流を通して人間関係、表現、言葉、協同性を育めるよう計画実施した。
--

5. 家庭支援

<ul style="list-style-type: none"> 子ども達の心身の成長を共有出来るよう日々の会話を大切に。保護者会、個人面談だけでなく、ほっとタイムを通し、子ども達の様子を共有でき、他のクラスの保護者同士が触れ合う機会ともなった。また、保護者連絡協議会勉強会、研修会の資料や子どもの育ちに関する資料を配布する等の情報提供も行った。
--

6. 第三者評価、利用者アンケート

<ul style="list-style-type: none"> 回収率は低かったが利用者アンケート総合結果で大変満足・満足が93.7%得られる事が出来た。今後の課題として、降園の際、子ども達の様子や伝達の仕方、職員の名札等、改善する。

1. 利用定員

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	20 人	23 人	25 人	26 人	26 人	120 人
運用定員	20 人	24 人	26 人	26 人	26 人	122 人

2. 重点目標

重点目標	評価・反省
・子ども達が主体性をもって遊びが出来る環境を整える	・子どもが主体的に遊べるような保育内容を考え保育を行うようにした。今後も環境をどのようにしたらよいか、職員が自ら考える姿勢を持つことで、保育内容だけにとらわれず、どのように、保育が発展したら子どもが楽しめるか、興味が持てるかを想像することをしていく。
・保育士の意識向上と保育の質の向上	・職員の仕事に対する意識の向上として、個々が目標を持ち研修に参加。自ら学ぼうとする意識をもつことで、実践につなげることが出来た。全体で共通理解をすることが難しく。研修に行っただけで、報告がなかったり、相談、連絡等出来ていないことが多かった。
・危機管理と衛生管理	・避難訓練を様々な設定で行うことで、問題点、改善点がみつき、それを職員で話し合い改善に努めた。防犯面では、保護者のネームタグの着用を徹底した。 ・子ども、保育士それぞれが防犯訓練をおこない、日頃から防犯意識をもてるようにした。

3. 養護

健康・病気

感染症	手足口病	33 名	インフルエンザA	29 名	インフルエンザB	14 名	他	27 名
・7～8月に手足口病が多発、全学年に感染者が出た。インフルエンザは12月～3月まで長く流行し、水痘、突発性発疹、ヘルパンギーナ、溶連菌、胃腸炎、アデノウイルス、が発症している。各症例については、都度保護者に注意喚起した。								

給食・アレルギー

アレルギー児	8 人	単品	4 名	複合	4 名	エピペン対応	1 名	エピペン使用回数	0 回
・複雑なアレルギー児の在籍、より慎重にアレルギー食を給食室、事務所、保育室とで確認し提供した。アレルギー食の提供について、給食室で職員が発見し、未然に提供ミスを防ぐ事ができ									

危機管理

・防犯訓練を警察の指導の下、実施。避難訓練では様々な想定の実施を行い、職員は判断して避難出来るようにした。災害伝言ダイヤルを活用した引き渡し訓練を実施。感染症に関して、流行することがなかったが、衛生処理などの研修を実施できなかった。
--

4. 教育

・子ども達が遊びやゲームの中で楽しんで英語に親しめる機会を作った。体操では、子ども達の身体の使い方や、運動に親しめるよう実施した。図鑑や地球儀を幼児クラスに用意し、自分で調べたり、興味を持てる機会を作った。

5. 家庭支援

・子育てひろば（おひさまkids）を開催し、近隣の未就園児親子が参加し、誕生月には在園児から歌のプレゼントや手形のプレゼントをし、保育園の活動に参加した。 ・一時保育は、予約日には、ほとんどが予約で埋まってしまう状態となっており、固定の職員が担当して安心して利用してもらえるようにした。
--

6. 第三者評価、利用者アンケート

・利用者アンケートは、回収率が26.6%と低い回答率となったが、全体的には満足している評価を頂いた。改善点としてお迎えの時に、職員と話ができないことや苦情相談の窓口を知らない保護者が多く、苦情窓口のきちんと説明し理解したもらうようにした。保護者への対応を全職員で共通認識し積極的に話をお迎えの際には話をした。
--

1. 利用定員

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	27 人	30 人	35 人	36 人	37 人	165 人
運用定員	27 人	30 人	35 人	36 人	37 人	165 人

2. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> ・保育計画の見直し及び実践 ・生活環境の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育指針改定に伴い、年齢別の保育計画の見直しを行い、実践の状況を見据えながら年齢別に課題を作成、毎月のクラス状況報告で検討し、繋がりのある計画を作成することができた。 ・各保育室のコーナー設置や遊具の選別、不要物の撤去を行い、生活環境の改善を行った。
<ul style="list-style-type: none"> ・健康へと繋がる体力と運動能力の向上 ・集団生活、行動の基礎を身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術的な取り組みと並行し、身体の動きを意識することを伝えながら実施した。年齢ごとに理解の範囲は様々であったが、興味の広がりを感じることができた。 ・個別に力量や挑戦する気持ちを育てると共に、集団行動の取り組みとして「並ぶ」「聞く」「伝える」を基礎内容としを行い、次年度へ繋げていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て施設としての役割を地域に広げる活動を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の発信源としての掲示板活用、法人で掲載内容が統一されたことで、見やすいとの声が聞かれるようになった。 ・子育てひろばの利用から保育体験へと繋げられるよう案内をしているが、利用が少なく今後検討を続けていく。

3. 養護

健康・病気

感染症	インフルエンザ	48 名	手足口病	42 名	溶連菌感染症	7 名	他	8 名
<ul style="list-style-type: none"> ・感染症を確認後、直ぐに保護者へ発症状況の報告及び予防対策の内容を掲示、注意を促した。又、園児の様子観察を行い、発症児の早期に発見し対応が図れるようにした。 								

給食・アレルギー

アレルギー児	7 人	単品	5 名	複合	2 名	エピペン対応	1 名	エピペン使用回数	0 回
<ul style="list-style-type: none"> ・給食の提供時間について、年齢別及び時期を第四保育期に細分化し、調整を図かった。 ・アレルギー食の提供確認方法及びエピペンの使用模擬訓練を行い、緊急時に備えた。 									

危機管理

<ul style="list-style-type: none"> ・保育園近隣で発生した傷害事件について、警察及び行政からの情報は一切得られない状況の中園舎内全施錠を行い、出入り口を一か所に制限し、職員管理を行いながら安全確保に努めた。発生現場の近隣への情報提供及び収集方法を今後の課題としたい。

4. 教育

<ul style="list-style-type: none"> ・年間保育計画において、特に今年度は欠の使用について年齢別に項目を策定し進めたが、計画と現状の差異がみられ、次年度の計画への修正を行った。又、体育については、集団目標「整列」個人目標「次への挑戦」を掲げ、集団行動の基礎と、個人の努力・頑張る気持ちを育ててきた。
--

5. 家庭支援

<ul style="list-style-type: none"> ・一時保育の生活環境の改善として、保育室内の配置換え（コーナーの設置・遊具の配置）を行い、落ち着いて生活できる環境及びスペースを明確にした。生活スペースが整い、利用保護者から「使いやすい」との声が多く聞かれるようになった。

6. 第三者評価、利用者アンケート

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者アンケートにおいて、満足度は92.2%との評価であったが、自由意見の中で改善に向けての検討課題があり、特に園庭門の危険性についての意見、要望が多く、自転車を園庭内に入れている関係でロックができず、送迎時の時間帯に危険度が高い。門の開閉時に子どもを自転車に乗せたままとなるため、早急に改善する必要がある。

1. 利用定員

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	17 人	20 人	25 人	27 人	27 人	116 人
運用定員	18 人	22 人	25 人	25 人	26 人	116 人

2. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> ・保育の専門性の強化 ・職員間の連携の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・特色を活かした保育として、日々の保育、行事を通し子ども達のがのびのび育っている様子が感じられる。 ・保育の専門性の強化は、今後も引き続き取り組んでいく。 ・職員間の連携では、「コミュニケーションとは」という題材で園内研修を行い職員間の連携の強化に努めた。
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援と地域交流活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の老人ホームへ訪問し、歌を唄うなどの交流を通し地域とのかかわりや、公園ボランティアの参加で花壇の花植など経験を通し、子ども達の社会性に繋がっている。 ・小学校との交流を行い、就学への準備活動を実施。 ・子育てひろば、一時保育も定着している。
<ul style="list-style-type: none"> ・安心、安全な環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を通し、地震や火災時の動きを子ども達も理解し速やかに訓練が出来ている。法人避難訓練や災害伝言ダイヤルの操作確認などを行い、災害についての認識が深まった。 ・園庭門には電子錠を設置、防犯対策となっている。 ・保育室の環境設備も安全に過ごせる様に見直した。

3. 養護

健康・病気

感染症	インフルエンザ	38 名	溶連菌感染症	31 名	手足口病	23 名	他	58 名
<ul style="list-style-type: none"> ・感染症が発症した際は、掲示や手紙を配布し、注意喚起した。インフルエンザは、1月から年度末まで長い期間続いた。手洗い、うがい指導を行い予防に努めた。 								

給食・アレルギー

アレルギー児	2 人	単品	2 名	複合	0 名	エピペン対応	0 名	エピペン使用回数	0 回
<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の栄養士を加えた給食会議で、連携を密に取り、間違えの無い提供を行った。重篤なアレルギー児はいないが、毎日の給食の提供は、複数で確認を行い間違えのないように進めた。 									

危機管理

<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修で危険個所の確認をする事で、怪我や事故に繋がらないよう気づきを大切にした。又、ヒヤリハット報告を全職員で共有し、危機管理に努めた。職員が直接確認はしているが、園庭門に電子錠を設置している事で、防犯対策になっている。
--

4. 教育

<ul style="list-style-type: none"> ・リズム、体操、和太鼓、英語等、年間を通し活動に取り組んでいる。リズムは、身体を動かしながら異年齢児との交流も図れる良い場。和太鼓は、夏祭りで発表することで子ども達の自信に繋る。体操は月に1度だが、指導内容を職員も学び日々の保育に取り入れる事で身体作りに繋がった。英語は、異国文化に触れる良い場となった。
--

5. 家庭支援

<ul style="list-style-type: none"> ・一時保育は、専任の保育士を配置した事で保護者の方からも好評を得ている。利用者は、定着し沢山の方にご利用頂いている。 ・子育てひろばは、保育園体験を味わって頂けるよう活動を進め、在園児の保護者や近隣の方の子育て相談にも対応した。

6. 第三者評価、利用者アンケート

<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の自由意見で、「子どもの成長に合わせて適切な教育や対応をしている。担任以外の先生も園全体で子どもを見てくれているのが伝わり、子どもが保育園を大好きである。」「提供される食事は、子どもの状況に配慮し安全対策も十分取られている」等、信頼を寄せる声を頂いた。がみられた満足度が高い評価を頂いた。
--

1. 利用定員

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	18 人	26 人	30 人	31 人	31 人	136 人
運用定員	18 人	26 人	30 人	31 人	31 人	136 人

2. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> 子どもの生活や遊びが豊かで主体的に行われるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 年齢に合わせ主体的に生活や遊びが行われるように遊具や室内の環境を整えたことで、子どもたちがリズムや体操、わらべうた、みそ作り、竹馬、バルーン、制作などの活動を継続して楽しむことが出来た。 物語（5歳児はかっぱおやじの絵本）の中の世界を一年を通して体験し楽しんだ。
<ul style="list-style-type: none"> 保護者が安心して子育てができるようにする。 地域社会における責任を果たせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と子どもの育ちを考え、成長と一緒に喜ぶ姿勢を持つようにした。保護者向けの講演会では、就学に関する不安を和らげることができた。 ミニ運動会や落語など地域の方々に参加してもらい地域との繋がりを持てた。保育園の見学もしてもらい地域の中の保育園として理解を得られるように心がけた。
<ul style="list-style-type: none"> 安全対策・危機管理対策をする。 保育士の専門性を高め、働きやすい職場作りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> エピペンの園内研修をはじめ、感染症の情報と対応を共有した。 職員会議毎に子どもの権利条約について資料を基に話をする機会を持ったことで、各々気づきがあった。 ICT化による業務改善に向けて積極的に実行し時間短縮各々働きやすい職場作りに向けて取り組んだ。

3. 養護

健康・病気

感染症	インフルエンザ	81 名	溶連菌	39 名	伝染性紅斑	33 名	他	77 名
-----	---------	------	-----	------	-------	------	---	------

・2月インフルエンザが流行しサポートセンター及び区役所に報告をした。園内の換気消毒の他、うがい手洗い、保護者への注意喚起をに対応した。

給食・アレルギー

アレルギー児	2 人	単品	1 名	複合	1 名	エピペン対応	1 名	エピペン使用回数	0 回
--------	-----	----	-----	----	-----	--------	-----	----------	-----

・重篤な卵アレルギーの園児には、行事等でも間違いがないように確認と声掛けを行い、誤食なく過ごした。

危機管理

・様々な想定での防災訓練、警察の方の指導で防犯訓練を実施、又防災士立ち合いの下、地域の方と共に消火訓練をした。嘔吐の処理については動画を使い、全職員で情報を共有した。

4. 教育

・講師から提供される遊びがその場で終わらず日常の中でも取り入れられるよう心掛けた。英語あそびは、異文化に触れ、ゲームや会話の掛け合いを楽しんだ。体操あそびは、身のこなしを良くし、体を動かす楽しさを感じられるようにした。素話として、物語の世界に浸り楽しい時間が持てた。リズム、わらべ歌の世界を知ること出来た。

5. 家庭支援

・入園当初より虐待を懸念される家庭（1歳男児、3歳女児の兄弟）に対して、関係諸機関と連絡を取り、生活リズムや保護者の体調など、状況にあわせた支援を行った。他家庭においてはアルコール依存の母や、連絡なく欠席が続き所在不明になった児の対応、父から母へのDV等、相談をうけながら子どもへの影響がないよう見守った。

6. 第三者評価、利用者アンケート

・園内にポストを準備し、回答率が上がる事を期待したが、回答率は41.6%であった。総合的な感想の回答が大変満足と満足が76.6%で、「園での活動は子どもが興味や関心を持っているものになっている」で満足度が高く、「お迎え時にその日の子どもの状況が個別に伝えられていますか」という設問ではいいえという答えが多く、これからの課題となった。

1. 利用定員

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	20 人	23 人	28 人	29 人	29 人	129 人
運用定員	24 人	25 人	28 人	29 人	29 人	135 人

2. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> 法人の基本理念や保育目標に基づいた保育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 法人の基本理念を職員会議などで常に落とし込み養護、教育、家庭支援を念頭に日々の保育を展開。特に環境設定や一人一人の育ちに重きを置き、職員間の情報共有を大切にし専門講師との連携を図り進めた。 園内研修やサブ会議などを通して職員の質の向上やスキルアップにつなげた。
<ul style="list-style-type: none"> 地域から頼られる保育園作り。 保護者が安心して生き活きと子育てが出来る保育園作りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が安心して子育てが出来るよう、信頼関係を築き、日々のコミュニケーションを大切に。手段の一つとして連絡帳や日々の会話などを通じて、園児の育ちや様子を保護者に伝え、ブログ等を通して保育園の様子を知って頂くように心がけた。
<ul style="list-style-type: none"> 危機管理意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理意識は、全職員が年間を通し意識して日々の保育を進めた。防災訓練を有意義に目的意識を持ち実施。感染症対策では迅速な対応と保護者への情報提供を行った。ヒヤリハットやアクシデントは毎日の朝終礼にて各クラスより提示し情報の共有を図った。

3. 養護

健康・病気

感染症	溶連菌	49 名	手足口病	44 名	インフルエンザ	18 名	他	38 名
<ul style="list-style-type: none"> 感染性胃腸炎、マイコプラズマ肺炎、ヘルパンギーナ、アデノウイルスが発症したが、都度保護者への掲示や職員の感染症マニュアルの読み合わせを行い拡大には至らなかった。 								

給食・アレルギー

アレルギー児	6 人	単品	4 名	複合	2 名	エピペン対応	0 名	エピペン使用回数	0 回
<ul style="list-style-type: none"> 鶏卵、乳、小麦、ごま、魚卵、大豆と多岐にわたるアレルギー食対応をした。誤配や誤食等の無いよう確認を行い、事故もなく過ごせた。 									

危機管理

<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して全職員が最も意識し、保育所施設では沢山の尊い命を預かっているという事を念頭に日々の保育を行い、職員の気づきを重要視し、重大事故につながらないようにした。
--

4. 教育

<ul style="list-style-type: none"> 恵まれた環境の中、戸外遊びを多く取り入れ、体力作りや自然を肌で感じながら子ども達の体験や経験を大切に。また男性保育士による体育教室、専門講師との英語やリズムは年齢別の発達段階を見極めて、年間を通して卒園までを見直し継続的に実施した。
--

5. 家庭支援

<ul style="list-style-type: none"> 子育てひろばや保育所体験、子育て講座など年間を通して計画的に実施し、保育所が持つ役割を最大限提供し地域の保護者やお子さんとの関わりを持った。また、在園児家庭とは家庭の事情を配慮、必要に応じた支援やサポートを行った。

6. 第三者評価、利用者アンケート

<ul style="list-style-type: none"> 今年度利用者アンケートを実施。『満足』以上が100%だった。しかし要望や不満があった時職員以外に相談できる窓口（第三者委員）があることを知らないという方が多く、入園説明会のみではなく保護者会や掲示等工夫していく。
--

1. 利用定員

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	24 人	25 人	27 人	27 人	26 人	129 人
運用定員	26 人	26 人	27 人	27 人	26 人	132 人

2. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> ・保育の充実と質の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育環境の見直しを行った。発達に応じた玩具かどうか、検討していく。 ・行事等の計画の開始時期を早め、共通の意識を持って取り組めるよう実施。今後は保育内容について職員間で話す時間を持ち、活動のねらいを意識して保育していく。
<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修の充実 ・安全対策、危機管理、防災対策の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスごとにテーマを決め、園内研修で発表した。得た知識を実際の保育で実践し発表する事が出来た。 ・防災用品の再確認を行った。ヒヤリハットの共有を行い、今後はBCPを見直し、全職員で分析、共有していく。
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭、地域との連携 ・地域子育て支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とのコミュニケーションに心掛けた。利用者アンケートの結果、保育内容についての周知が足りなかったと思われる。保護者会やクラスだよりだけでなく写真掲示等、視覚的にも活動を伝えていく。 ・子育てひろばや一時保育等を通じて、地域の子育て家庭と交流した。

3. 養護

健康・病気

感染症	手足口病	38 名	溶連菌感染症	29 名	インフルエンザ	27 名	他	32 名
<ul style="list-style-type: none"> ・7～8月に1、2歳児で手足口病、12月～溶連菌感染症に罹る子どもが増えた。1月にインフルエンザが流行。他クラスに感染が拡大しないよう職員間で対処方法を再確認した。園内に掲示し、保護者にも注意喚起した。 								

給食・アレルギー

アレルギー児	12 人	単品	7 名	複合	5 名	エピペン対応	0 名	エピペン使用回数	0 回
<ul style="list-style-type: none"> ・保育参観にて、試食を行う。食育の一環でキャベツちぎり等行い、保護者の方にアンケートの協力依頼をすると（2歳児）、食に関心を持つようになったとの感想を頂く。アレルギー児が多く、誤食が無いよう注意し提供した。 									

危機管理

<ul style="list-style-type: none"> ・保育園建物の5階以上への、津波を想定した避難訓練を行っている。今年度はマンション管理会社の管理人と共に実施。ヒヤリハットの共有は行っているが、分析が出来ていないので今後行っていく。職員を対象に防犯訓練を行い、対応の仕方を確認した。
--

4. 教育

<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会にて基本理念（養護、教育、家庭支援）について改めて話す。教育＝学力ではなく、遊びを通して気付いたり、習得していくもなので、遊びが大切である事を伝える。又組織目標に（個を大切にしたい）発達を考慮した活動や援助を掲げたが、まだ不十分であり、子ども自らの発見や、習得をどのように引き出して行くか、研修を通して保育士の意識を高めていく。

5. 家庭支援

<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の希望により臨床心理士による相談を行っている。保育相談に関しては、保護者の方が職員に相談し易いよう、日常保育の様子を伝えるだけでなく、職員自身が専門知識を学び続ける事が必要と感じる。様々な国籍の保護者、子どもが多く、入園時は援助の必要を感じる。
--

6. 第三者評価、利用者アンケート

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者アンケートを実施。満足以上の回答は89.6%であった。課題であった保育理念、方針についての周知を保護者会で伝えた結果、前年度に比べると周知出来たが、まだ浸透出来ていないので引き続き伝えていく。又今回のアンケートで保育内容が保護者に見えにくい為、保育の見える化を工夫していく。

1. 利用定員

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	16 人	23 人	25 人	54	人	118 人
運用定員	20 人	23 人	25 人	54	人	122 人

2. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> 子ども達の心の成長を目指して一人ひとりの育ちをしっかりと把握し、丁寧に気持ちや姿を受け止め、たくさんの体験から心に響く保育環境を整えていく 	<ul style="list-style-type: none"> 職員様々な保育観や子ども一人ひとりの育ちを把握する為、クラス会議の内容の充実を図り、丁寧な保育へと繋がった。 年齢に応じた机、椅子を購入し、活動に応じた環境構成が出来た。子ども達が集中しやすい環境にすることで、よりスムーズに活動に参加した。
<ul style="list-style-type: none"> 子ども、保護者、地域、同僚にとって安心の関係作りをしていく 	<ul style="list-style-type: none"> 「伝わるように伝える」を意識しながらコミュニケーションを図る様心掛けた。伝え方の難しさを感じている。また「福祉の心」を考える機会として相手の状況の把握や思いに寄り添った物事の考え方等、話し合いの場を設け、共有した。安心できる場作りとして今後も努力していきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ヒヤリハットからの気付きを増やし、日々の危機管理に繋げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ヒヤリハットの内容を終礼時に共有、どんな状況が危険な場面を引き起こすのか、「もしも」を前提に危険を予測し、どんな予防方法があるのか等を職員間で考える機会となった。今後も子ども達の突発的な行動等、予測する習慣を身に付け、危険回避に繋げていきたい。

3. 養護

健康・病気

感染症	インフルエンザA型	56 名	インフルエンザB型	36 名	手足口病	35 名	他	77 名
<ul style="list-style-type: none"> 型の異なるインフルエンザが時期をずらして流行。保護者への注意喚起と共に、手洗い、うがいを実施、大切さ等伝え、感染予防を心掛けた。兄弟間や家族間での感染も多く見られた、情報発信しながら感染予防を伝えた。 								

給食・アレルギー

アレルギー児	5 人	単品	4 名	複合	1 名	エピペン対応	0 名	エピペン使用回数	0
<ul style="list-style-type: none"> 給食提供時等、確認を給食、職員ともに徹底し行った。また、子どもの体調の変化等にも配慮し提供後の体調の変化に注意し見守った。アレルギーに関する研修に参加したことで、知識の習得と情報の共有に繋がり、より慎重に対応することができた。 									

危機管理

<ul style="list-style-type: none"> 防犯訓練を通し、実際の状況に合わせた対応の仕方を学んだ。想定外の状況等、改めて知る機会となった。また、プールあそびや乳幼児突然死症候群に関する情報の共有にも努め、事故事例を通して予防を考える機会となった。
--

4. 教育

<ul style="list-style-type: none"> 食育として梅干し作り、枝豆栽培から味噌作りを行った。植物の育ちに興味を示す姿があり、実際に食べ物へと変化する様子が目にでき、良い経験となった。また、園外の散歩を通して植物や木の実への興味が深まり、発見する事に喜ぶ姿が見られている。英語遊びでは講師によるハロウィーンやお楽しみ会等、異文化に触れる体験となった。
--

5. 家庭支援

<ul style="list-style-type: none"> 保護者の疾病により関係諸機関と共に支援を行っている。親の状況により登降園が困難となっている為、支援センターの紹介ヘルパーを利用し、登降園を行い、週3日程度の登園状況となっている。親の状況の変化等を把握し今後も見守りが必要となっている。

6. 第三者評価、利用者アンケート

<ul style="list-style-type: none"> 登降園の際の伝達の仕方について、個別に時間を作り、個々の様子を知らせて欲しいとの要望がある。又日々担任との話を希望する声もある。希望者には年間を通して個人面談を受け入れている。
--

1. 利用定員

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	25 人	26 人	27 人	30 人	30 人	138 人
運用定員	25 人	26 人	26 人	30 人	30 人	137 人

2. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> どの子どもも安心して、笑顔で過ごせる保育園生活をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かす活動を楽しんでいる。運動あそびやリズムあそびは日常的に行っている。異年齢活動も多く、夏のお楽しみ会等、行事でも交流を楽しんだ。保育所保育指針の改定を機に園内研修にも力を入れ、保育について改めて深く学ぶ機会とした。
<ul style="list-style-type: none"> 子育てひろばの充実。 保護者支援 	<ul style="list-style-type: none"> 子育てひろばの問い合わせが多く、地域の方々に楽しみにして頂いている。保育所体験では、同じ年齢のクラスに入り、保育園での生活を親子で楽しんだ。入園に向けて不安もあったが、実際の園生活を体験して安心できたとの感想を頂いた。保護者の要望もあり「就学に向け大切にしたいこと」をテーマに外部講師による講演会を実施した。
<ul style="list-style-type: none"> チームとして仕事を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いに助け合いながら誰もが安心して働きやすい雰囲気作りに努力した。新規採用者4名、OJTに取り組んだ。其々のペアで進めて行く中で、助言や指導の難しいところ等、先輩保育士に相談しながら取り組んでいる姿もあり、当人同士のみならず、園全体で取り組んだ。

3. 養護

健康・病気

感染症	手足口	19 名	胃腸炎	17 名	溶連菌	7 名	他	37 名
<ul style="list-style-type: none"> 5月に1歳児クラスを中心に胃腸炎が流行、保健所の訪問があった。感染拡大予防についてアドバイスを貰った。職員への嘔吐処理・オムツ交換の留意点について園内研修を実施した。 								

給食・アレルギー

アレルギー児	5 人	単品	3 名	複合	2 名	エピペン対応	1 名	エピペン使用回数	0 回
<ul style="list-style-type: none"> 食材を豊富に使った給食は保護者から好評を得ている。 アレルギー児に関しては年度途中で1名解除となったが提供ミスの無いように給食との連携を図り対応。 									

危機管理

<ul style="list-style-type: none"> 警察立会による防犯訓練では不審者対応訓練を実施。散歩など園外での対策、さすまたの効果的な使い方を学んだ。年長児への「いかのおすし」の話は就学に向けて良い機会となった。

4. 教育

<ul style="list-style-type: none"> 園庭あそび等、体を動かす活動を十分に取り入れ定期的実施。運動あそびでは各年齢に応じてマット、鉄棒、縄跳び等にチャレンジした。体を使った活動をんびのびと楽しむ姿が見られた。運動会などの行事で保護者にもその成長を披露できた。3月、年長児が上手になった縄跳びを披露した、年長児の自信に満ちた表情と見ていた子ども達の憧れの表情が印象的だった。

5. 家庭支援

<ul style="list-style-type: none"> 関係諸機関と連携を図り、対象となっている子どもの関係で、月に1回の安全確認報告を提出。特に大きな問題は無いが、家庭環境や養育状況を関係諸機関と連携し支援した。 保護者向け講演会を実施。就学に向けての内容だった為、年長児の保護者の参加が中心となった。

6. 第三者評価、利用者アンケート

<ul style="list-style-type: none"> 園庭あそび等、体を使った活動や日々の活動が興味関心を持っている事、体調の変化に対する対応等に評価を頂いているが、登降園時の保護者への子ども様子などを伝える事が十分に出来ていない事が課題となった。保育園での様子を必ず伝える、伝え方のポイントなどを全職員で学び日頃からのコミュニケーションも大切にしたい。
--

1. 利用定員

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	27 人	28 人	28 人	28 人	28 人	139 人
運用定員	27 人	28 人	28 人	28 人	28 人	139 人

2. 重点目標

重点目標	評価・反省
・運動遊びの充実	・健康な身体作り、自分の身を守る俊敏性等の育成を目標に、ラジオ体操、縄跳びを日常的に実施。講師指導による年間計画と合わせて、年齢別の活動で楽しみながら危険な動きや身体を守る大切さも伝えた。活動が日常的に実施する一方で、保護者からは散歩が多すぎるとの声もあり、保育の方針が十分に説明出来ていなかったと感じた。
・安全対策	・園庭の段差解消工事の実施で安全に園庭の使用が出来、保護者から安心の声も聞かれる。登降園時の保護者の自転車を入れたことで、道路への飛び出し等危険な姿が無くなった。しかし、門の未施錠の不安が解消されておらず、次年度は通用門の施錠見直しを行う。感染症対策、プール事故等は都度園内研修を実施し共通理解をした。
・子育て支援	・信頼関係を深められる様、日々の連絡、保護者会の内容等意識を持って出来た。意見に対して背景を検証し、職員間で確認。改善出来る事、説明が必要な事を分け迅速に対応した。しっかり向き合っ保育することが一番の信頼であることを改めて職員が自覚した。子育てひろばは安定し楽しみにしている様子でリピーターも多い。

3. 養護

健康・病気

感染症	インフルエンザ	57 名	水痘	35 名	手足口病	47 名	他	78 名
・降園時に玄関での嘔吐処理が十分で無かった為感染性胃腸炎が流行してしまった。壁や下駄箱の中まで意識が無く、初動対応が甘かったことを痛感した。各所徹底消毒とオムツ処分をし3日ほどで終息した。初期の徹底的な消毒を改めて職員間で共有した。								

給食・アレルギー

アレルギー児	12 人	単品	7 名	複合	5 名	エピペン対応	1 名	エピペン使用回数	0 回
・卵、乳、小麦、大豆（宗教の豚肉）の除去食を提供。1歳児は7名と多かった為安全に配慮し、保護者説明をしてクラス設定をした。接触アレルギーの子どもがいた為、事故の無いよう注意をし食事提供をしたが、他児のこぼした牛乳が飛び散り、皮膚が赤くなる事故があった。									

危機管理

・プールや感染症の対応を見直し、園内研修を実施。職員間で対応の違いがないよう意識の統一を図った。保護者にも意識を高めて頂く取組みとして、2回の災害伝言ダイヤル訓練を実施。参加率は99.9%と意識が高く、保護者理解を深める努力の大切さを改めて感じた。
--

4. 教育

・運動あそびを特色として年度当初に保護者説明。朝のラジオ体操は習慣となり、日々の保育では幼児を中心に縄跳びを取り入れ、運動会や発表会では日々の成果を発表、子どもの自信に繋がる取組みとなった。毎月の反省では各クラスどのような取り組みを意識したか、次月への課題も明確にし職員も意識を持って取り組めた。
--

5. 家庭支援

・気軽に保育園に足を運べるよう、0歳児も参加できるよう内容も配慮して計画した。保育のヒントなど家庭に持ち帰り出来るような簡単な遊びも提供。広場で交流を深め、参加者同士、顔見知りの方が増え、会場の雰囲気もよく、在園児と関わる時間では「こんな風に来れるようになるんですね」と今は見えてない姿を楽しみにする声が聞こえた。

6. 第三者評価、利用者アンケート

・行事ごとにアンケートを実施、必ず意見に対するフィードバックを行い、行事や園の考えに関しては概ねご理解頂いている。全体の満足度は90%だが、利用者アンケートでは「登園時の声掛け」「お迎え時の伝達」は満足頂けていない回答が目立った。当番体制の見直しも厳しい現状なので、少しの情報でも伝えられる様個々が意識を持つ必要がある。
--

1. 利用定員

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	19 人	21 人	25 人	26 人	26 人	117 人
運用定員	19 人	21 人	25 人	26 人	26 人	117 人

2. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの気持ちを受け止め丁寧な保育 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の保育の中で子どもに寄り添う保育は園内研修等を行い実施した。職員の持ち味や専門性を発揮し、魅力ある保育でを行った。 子ども達が自分らしさを出し何事にも興味・関心を持って活動していた。
<ul style="list-style-type: none"> 健康な体作り 地域との交流 	<ul style="list-style-type: none"> 相撲体操その他マット、跳び箱、縄跳び、トランポリンなどを行う事で、身体能力の向上を図ることが出来た。 地域の方には、子育てひろばに参加して頂き、保育士や保育園の様子が分かり好評を得ている。近隣の高校への避難訓練には町会と合同で実施した。
<ul style="list-style-type: none"> 安全対策、危機管理の取り組み 職員の専門性を高め自分らしく生き生きと働ける職場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練等については、様々な災害を想定し、訓練を実施した。第2避難場所の公園へ避難や引き取り訓練、不審者対応の訓練には、警察等の立会いの下、実施した。 保育に対する、思いや意見を相手に通じるよう、思いをもって話す事を一人ひとり心掛け、休憩時間等に職員同士コミュニケーションが取れるよう配慮した。

3. 養護

健康・病気

感染症	インフルエンザ	25 名	溶連菌感染症	16 名	手足口病	16 名	他	41 名
<ul style="list-style-type: none"> 感染が発症した際は、保護者向けに掲示、情報提供をしたことで、感染の拡大を防いだ。11月頃に幼児を中心にインフルエンザと手足口病が流行、園舎消毒等を行い拡大することがなかった。 								

給食・アレルギー

アレルギー児	3 人	単品	3 名	複合	0 名	エピペン対応	0 名	エピペン使用回数	0 回
<ul style="list-style-type: none"> 重篤なアレルギー児はいないが、給食、担任、事務所での複数チェックを行い事故無く提供した。食材で食事に興味を持てるように、野菜の皮むきや野菜洗い乾物についての実験等を行い食材に触れる機会を設けた。 									

危機管理

<ul style="list-style-type: none"> 津波を想定した避難訓練では、近所の高校の3階に避難、その節、町会から申し出があり合同で訓練を行った。(11名の大人が参加) 地域との連帯が図れた。

4. 教育

<ul style="list-style-type: none"> 相撲体操を昨年同様引き続き行い2年目の成果としては、蹲踞(しゃがむ)をしてつま先立ちの体制を立てて前方を向く動作が出来るようになり、体幹が鍛えられている。身体の使い方や柔軟性や礼儀、挨拶が自然な形で行われている。 年長クラスは、毎月行われる「おはなしにこにこ」に参加。集中して話を聞く力が育った。

5. 家庭支援

<ul style="list-style-type: none"> 子育てひろばの参加者が、入園を希望していることが多く責任の重さを実感する。在園保護者会で、生活でストレスが溜まってしまふ等の意見を聞き、登降園時に事務所を解放し、日々の子どもの様子を含めた子育てに関する話をしをする機会を設け好評を得ている。
--

6. 第三者評価、利用者アンケート

<ul style="list-style-type: none"> 回答割合28.0% 大満足・満足合計92.1%であった。自由意見には、「先生方全員が全園児と関わり子ども達を可愛いと思って接して下さいます」「施設内の清掃、整理整頓は行き届いている」「先生方がいつも明るく、子どもの話だけでなく、楽しくお話できる時間がとても和みます」等園に対して信頼されている事が感じられる。
--

1. 利用定員

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	22 人	23 人	23 人	23 人	23 人	114 人
運用定員	22 人	23 人	23 人	21 人	22 人	111 人

2. 重点目標

重点目標	評価・反省
<ul style="list-style-type: none"> 園児一人ひとりの発達を把握し個々の状態に合った保育を進めていくと共に体力の向上に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の保育や行事を通して楽しく、積極的に遊ぶ姿が見られた。また、体育あそびの実施や改修工事期間中は近隣の公園まで遊びに行く回数が増えた事で更に歩行や持久力等の体力向上につながった。
<ul style="list-style-type: none"> 保護者との信頼関係を築く。 地域に愛される保育園づくりを目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者アンケートを実施し、職員による伝達ミスや会話術、保育の質の向上等を更に期待する声が求められ全職員が意識しながら信頼関係を築けるよう保育を実施。 地域住民による苦情（園庭の砂が舞う、登降園でマナー、改修工事での音）が起こる前に予防に努め、近隣の行事等にも積極的に参加し関わりを深めた。
<ul style="list-style-type: none"> 職員の保育に対する意思統一と連携を図り、自覚と責任を持って進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「保育目標の把握と実践」や「チーム力を高める」「当園の特色の確立」「保育の質の向上」「危機管理の徹底」「地域交流・子育て支援施設としての役割の遂行」「社会人としての常識やモラルの再確認」といった組織目標を立て、朝礼や職員会議の中で話をする事で少しずつではあるが、自覚や責任感が見られる様になった。

3. 養護

健康・病気

感染症	手足口病	37 名	溶連菌	10 名	ヘルパンギーナ	8 名	他	29 名
<ul style="list-style-type: none"> インフルエンザや胃腸炎など保護者への手紙配布や掲示、口頭による呼びかけによって予防に努める事ができた。 								

給食・アレルギー

アレルギー児	6 人	単品	4 名	複合	2 名	エピペン対応	0 名	エピペン使用回数	0 回
<ul style="list-style-type: none"> アレルギー食による提供ミスはなし。改修工事で約2か月間業者によるお弁当となったが、栄養士と業者との綿密な打ち合わせを行った事で特に問題なく進められた。 									

危機管理

<ul style="list-style-type: none"> 改修工事のため近隣の公園での遊びが増え、不審者等による周囲の状況を確認、報告を行い臨機応変に動く事ができた。また、工事機材等での事故や怪我がないよう業者との綿密な話し合いを設け保育を進めた（事故怪我等なし）

4. 教育

<ul style="list-style-type: none"> 英語や体育あそびを取り入れた事で子ども達はとても興味や関心を持ち、積極的に参加し次回を期待する姿が見られていた。また、保護者から「英語に興味を持つようになった」「体力がついた」「諦めなくなった」「精神面が強くなった」等の子どもの成長が見られた事で支持が多く、もっとやって欲しいとの声が多数聞かれた。

5. 家庭支援

<ul style="list-style-type: none"> 子育てひろばは主に園庭を使用し、参加児と年齢が近い子どもとの関わりが持てるよう実施。参加保護者も同年代の子ども達との関わりという事で成長発達面で勉強になったとの話も頂いた。
--

6. 第三者評価、利用者アンケート

<ul style="list-style-type: none"> 利用者調査を実施し、保護者からの満足度は93.4%だったが、職員による伝達ミスや会話術、保育の質の向上を更に期待する声が多かった。また、回収率が44.1%と低いため今後回収率が上がるよう進めていく。

1. 利用定員

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	15 人	23 人	25 人	25 人	26 人	114 人
運用定員	15 人	23 人	25 人	25 人	26 人	114 人

2. 重点目標

重点目標	評価・反省
・現在の北小岩保育園を理解し継続していく	・行事を始め、区立園の日常生活を継続するよう努めていった。私立園に移行したことで法人特色の、交流運動会は保護者からも好評を得、法人の方針がご理解頂けた。秋の運動会が二週続きで雨天となり、開催会場についての要望があり、反省として生かしていきたい。
・意識向上の為の、園内研修及びキャリアアップ研修に参加する。安全対策、整備環境を整える	・私立保育園園長会主催研修、キャリアアップ研修は職員の経験年数、職歴などを考慮しながら参加、発表の場を設けながら、職員が同じ認識を持つことが出来た。 ・安全対策は危険箇所を十分に把握し、破損部分は修理などを行い環境を整備を行った。
・新規事業(延長保育等)の実施 ・地域に根がした保育園作り	・延長保育定員20名でスタート。保育室の配置や人員配置など、安全面が十分確保できる体制を整えた。又、延長保育を初めて実施することで、玩具あそびや言葉掛け等、注意して実施。 ・地域の子育て施設連合会や、近隣の区立園との連携、職場体験の積極的な、受け入れに努めた。

3. 養護

健康・病気

感染症	溶連菌	28 名	手足口病	28 名	インフルエンザ	23 名	他	15 名
・溶連菌が蔓延したのが目立った。医師からの登園許可が早めに出されたこともあり、又、受診が遅れたことが原因と考えられる。インフルエンザも同様であり4月開園時より徐々に流行り、長期化してしまった。								

給食・アレルギー

アレルギー児	4 人	単品	3 名	複合	1 名	エピペン対応	0 名	エピペン使用回数	0 回
・重篤なアレルギー児はいないが、都度チェックを行い、間違いの無いよう給食の提供を行った。									

危機管理

・危機管理に関しては、電子錠、夜間警備、防犯カメラを設置し対応した。小岩警察署より不審者対応の指導を全職員で受け、防犯意識を高めた。
--

4. 教育

・子ども達に対し、講師を入れての教育的活動は無かったが、区立より継続して進めているリズムあそび、縄跳び等を職員で行った。運動会種目を取り入れ、子ども達の自信に繋がり保護者から好評を得た。

5. 家庭支援

・12月より、子育てひろば、保育所体験を開催したが、周知の仕方が不足していたためか利用者が少なかったため、今後徐々に浸透させていきたい。
--

6. 第三者評価、利用者アンケート

・初めての第三者評価、利用者アンケートを実施、回答率40.2%と低かったのが、結果としては大満足、満足で84.6%であった。今後の改善できる場所はしていきたい。
--